

ゆめ通信

地域づくり考房 

{ Vol.048 }
2021 9.22

特集 ONE TEAM プロジェクト

茶房「ひといき」/「ゆめ」編集/すすはなプロジェクト/#つぶやき



地域づくり考房「ゆめ」
キャラクター こう坊

考房『ゆめ』は松本大学の全学生を対象に、学生と地域住民とのふれあいを大切にして取り組む地域連携活動の支援を行っています。

ごあいさつ

コロナ禍の影響で学生が地域で行う活動が制限されて既に1年半が経ちます。今年度前半も企画したイベントがいくつか中止や延期になりました。それでも地域の方々とは、その繋がりを絶やすことなく様々なアプローチを試みてきました。地域は形を変えた教科書であり、地域の人々はそれを伝える師となって学生たちは多くのことを学んでいます。

今号は昨年からはじめた企画「ONE TEAM プロジェクト」をはじめ、コロナ禍の中で様々な工夫を凝らしながら活動を続けているプロジェクトの様子をお伝えします。特に地域の方々との交流の中から得た経験は宝物です。そこで活動の紹介とともに学生の感動をイラスト入りのメッセージにてお伝えします。



学校法人松本学園
松本大学

ONE TEAM プロジェクト

概要



地域活動の第一歩として、地域を知ることが目的とした「ONE TEAMプロジェクト」を昨年度から実施しています。地域の人々との出会いや交流の大切さを感じ、そこで生きている人々の想いにも触れます。また、様々な視点から地域を見つめるため、毎回テーマを設定して活動しています。

この活動は、学生が地域活動をする入口でもあり、また学生同士が交流を育める機会にもなっています。

5月 地域ビジネスに活かす農業



昨

年9月、「農業生産法人株式会社かまくらや」と地域住民の方々と再生に取り組んでいる四賀地区の棚田で、学生と地域の方々とで稲刈りとはげかけを行いました。今年は田植えも行って、稲が育ち米となり、販売されるまでの経費を頭に入れながら、地域ビジネスについても学ぼうという取り組みを考えました。ところが、今年もコロナ禍で警戒レベルが上がリ、残念ながらかまくらや田中浩二社長と地域住民の佐々木清夫さんのお話を聞くことはできませんでした。しかし、お二人と四賀地区の社会福祉協議会のお力添えで、「ゆめ」職員と地域ボランティアの方々による田植えを実施しました。学生との交流を楽しみにしてくださった皆さんから、棚田が生まれた頃の話や秋の収穫にはぜひ来てほしいとありがたいお話を聞くことができました。



地域の方のメッセージ

「私が知る限りでは、150年以上前の田んぼで私もその頃作っていましたので、(あ、嘘か) (笑) 江戸時代からこの田んぼを作っていたはず。あれは江戸時代に積んだ石垣です。歴史のある耕地で作り手がいなくなってさびれてしまいましたが、大勢の力で蘇りました。大変うれしく思います。ご協力いただいて江戸時代以来の田んぼの復活をよろしくお願いいたします。」

「今日は(学生が見えなくて)残念でしたが、秋を楽しみにしましょう。モノを作る楽しみ、それを仕上げて食べる楽しみ、それを学生にわかってもらえれば、今日のコメの作り方がわかると思います。」



6月 地域に生きる人々から学ぶ…① ～梶原農園～

1 ターンで四賀地区に住み、野菜作りを始めて11年ほど経つ梶原啓・知子さんご夫妻から、昨年に続きお話をお聞きし、その野菜を使ったお弁当が、有機栽培による自然の味と学生参加の初めてのONE TEAMの活動を新鮮なものにしてくれました。

お二人の歩まれた人生から、四賀に来たきっかけ、地域の人たちとの人間関係づくりと多岐にわたりお話をいただき、自分たちだけのことを考えるのではなく、仲間を増やしていくために魅せる畑づくりを考えて実践されたことなど、ご夫婦で会話をしているように語っていただきました。

四賀は、「開けすぎた畑より、里山の向こうにアルプスがあるところがいい」という直感的な縁を感じ、人々の温かさを選んだ理由の一つと聞きました。小さな畑だからこそ、天候に左右されない多種類の野菜を育てることにつながり、冬場の仕事に何をするのか考えて1年間の作物と育て方を研究されたようです。天気予報を見ることは毎日の日課で、勉強し、次の種付けや収穫の日程づくりに役立ったことや、将来的には研修生を受け入れていきたいことも触れて話して下さいました。



学生の感想

自分たちに合った農業のやり方を探してやっていて、とても素敵だと思いました。梶原さんは、とても生き生きと話されていて、農業を楽しんでいることが伝わってきました。食料自給率を上げるために、将来の展望をたくさん持っていて素敵なきき方だと思います。(丸山)



地域に生きる人々から学ぶ…② ～歴史～

4 四賀地区の人々の生きざまを理解するためには、四賀の歴史を学ぶことが大切であると考えて、当日の午後は地区の文化遺産を見学するフィールドワークを行いました。

四賀文化財保護協会会長である市川恵一さんの案内で、6月の梅雨の晴れ間をぬって会田宿とその周辺を徒歩で散策しました。参加した学生は、四賀地区が各街道の交わる場所であり、そのため街道を中心に発展した交通の要としての場所であることなどを、身をもって理解することができました。街道筋の建物には時代の出来事の名残となる様々な施設が残り、この街道を多くの人たちが通過し、日本の歴史を作ってきたのだという事実が実感できました。そして、会田宿を中心とした四賀地区の隆盛を見つめることで、これからの地域の在り方や価値を改めて見つめる良い機会となりました。



学生の感想

四賀地区は古くから街道の歴史があり、今でも至る所にその跡が感じられ大切にされてきたということが分かった。現在でもその歴史を語り継ぐ人がいるように、自分たちもその風土史を理解し、受け継ぐ必要があると思いました。(島澤)



景観を保存していること、どうしてこのようになったのか説明できる人の存在は大きいと思った。自分の地元こんな人材がいるのか、守っている景観は何かあるのか、少し調べてみたいと思った。(三嶋)



7月 地元野菜の魅力と人のつながり

四 賀梶原農園にてネギの植え替えと、「sabouしが」の田中ゆかりさんに地元野菜を使った食堂経営についてのお話をお聞きしました。天気にも恵まれ、参加した学生は元気がつらつ、意気揚々とネギの植え替えに向かいましたが、男子学生には試練が待っていました。ネギの植え付け用の穴をあける作業は数千個以上で、手に豆を作り、流れ落ちる汗を涙と共に飲み込み、何度も水を汲みに走る過酷なものでした。しかし、弱音を吐かずに頑張れたのは、梶原さんご夫妻の励ましと一緒に参加した女子学生の明るい笑顔のおかげであったよう

な気がします。秋の収穫の楽しみは、大きく育ったネギの味と学生の成長です。

疲れた体を「sabouしが」まで運び、梶原農園ご用達の野菜たっぷりの昼食をじっくり時間をかけて味わいました。Uターンでこの地を探し、食堂を開かれた田中さんから、なぜここを選んだか、コロナ禍で開業ができず苦勞したこと、「結」という仲間を作り、移動販売で協力合っていることなどを聞き、学生は積極的に質問をしていました。



学生の感想



ネギ植えがこんなに大変だとは思わなかった。大変だったけれど知らない人とも話をしながら協力してできたし、終わった時の達成感はすごかった。一つの農業体験を通じて人と人がつながることができるのはすごいと思った。(今村)

食材や調理方法に対する田中さんのこだわりや、工夫などを感じることができました。“手間をかけてゆっくり作ること”、“添加物はなるべく使わないようにして、無駄に摂取するものを減らす”など、これからの勉強で役立つ情報をたくさん伺うことができた。“食”を通して、人々の心も身体も健康にできる、管理栄養士を目指していきたいと改めて思えた時間でした。(波川)





栄村小滝集落の魅力を知る

栄 村小滝集落の案内人(苗場山麓ジオパークガイド)中澤謙吾さんと、移住して来られた吉田^{としふみ}理史さんに講師となっていただき、集落の散策をしました。山や花、水など自然あふれる風景の中、最近発見したという一里塚の跡も紹介してもらいました。中澤さんは、「常に新しいお宝を見つけ出すのが好きなんだ」と話してくれました。

午後は、古民家を再生した交流の拠点「となり」で『小滝ってこんなところ』と題し、長野県北部地震当時の被害状況や復興の道のり、地域内外の人々との関わりを大切にしていること、300年先まで存続する集落にしたいという思いなどをお聞きしました。

学生の感想

小滝の住民は前向きで、エネルギッシュな方が多いと感じました。村のことを全員で考え、意見を共有していると聞き、驚きました。全員が参加することで団結が強まるのだと思いました。(長谷川)



集落には同じ名字の人が多いため、それぞれの家の特徴にちなんだ屋号で呼び合うというのはとても面白いことだと感じた。また、機会があったら今度はなぜあんなに小滝の人は元気なのか探りに行きたい。(曾根原)

小滝集落は、学生プロジェクト「ええじゃん栄村」で関わらせていただいております。今回は初めて訪れる学生とメンバーと一緒に参加しましたが、地域の方々は変わらず温かく迎えてくれました。





コロナ禍を越えた 茶房「ひといき」の取り組み



新村地区の方々との交流の場として続いてきた茶房「みずぶ屋」は、昨年のコロナ禍の中で長期の休業に追い込まれました。しかし、交流の場を絶やしたくないという強い気持ちの中で住民と学生が代わりの場所を探し続けました。こうして今春3月に新村公民館隣の研修センターの一室で、「みずぶ屋」の思い出会が開かれ、茶房「ひといき」としてこの場所で再スタートすることになりました。

しかし、コロナ禍による行動制限は今年も続いており、4月のオープンにはオンラインでの開催という今までとは異質な交流会となりました。当日は地域の方々が集まるテーブルにパソコンが置かれ、学生がオンラインで住民の方々に話しかけるといふ方法で懇談が始まりました。「元気だったかい、今何やってる、就職活動はどうだい」。皆、抑えられていた気持ちを一挙に噴き出すようにして画面に話しかけ盛り上がります。学生と住民の笑顔が久しぶりに繋がった瞬間でした。

コロナ禍の行動制限の下で、現在は月1回の営業となっています。時にはオンラインになることもありますが、学生たちは毎回工夫を凝らして、昔の遊びや歌、クイズなどでお年寄りとの楽しい時間をつくり出しています。学生たちは、茶房「ひといき」がかつての「みずぶ屋」のように地域の誰もが自由に歓談できる場になることを信じて活動を続けています。



学生の感想

感染レベルに振り回されてきましたが、地域の方と学生に楽しんでもらえることを軸に頑張ってきました。4年生の先輩や『ゆめ』の職員、地域の方にも助けられて前期の「ひといき」を行ってきました。本当に感謝しています。後期は、感染が収まってくれたら、今までできなかったイベントなどを行いたいと思います。(上林)



地域の方々と一緒にお話をしたり、音楽やクイズなどで交流を深めることができました。活動の前半は、オンライン上での参加だったことや人と会う機会が減ったこともあり、同じ場で顔を見ながら触れ合えることの楽しさを改めて感じました。まだまだ本来の活動はできませんが、「ひといき」でできた様々な繋がりを大事にしていきたいです。(小林)



「ゆめ」編集 ～壁新聞で情報の発信～



学生プロジェクト「ゆめ」編集は、地域と大学を結ぶ情報の発信をしています。今年度は、定期的に壁新聞を作成しようという話になり、前期の間はどんな記事を載せようかと話し合いを進めていました。取材を予定していた活動がコロナ禍で中止になったこともありましたが、メンバーで知恵を出し合い、紙面を決めていきました。

今回は、茶房「ひといき」の特集記事、地域の方から要望のあった硬式野球部の紹介、ひまわり畑のお知らせを取り上げました。記事を書くにあたり、メンバーは関係している方々へインタビューを行い、記事を通して想いを伝えられるように意識して作成しました。『ゆめ』のホームページに壁新聞を掲載しているので、ぜひご覧ください。

<https://www.matsumoto-u.ac.jp/yume/>



学生の感想

私たち「ゆめ」編集は、大学と地域にリアルタイムで情報を発信したいと思い、この活動を行いました。壁新聞作成を通じて私は、本来知ることのなかった人の想いを知ることができました。インタビューにご協力くださり、ありがとうございました。(真関)



『ゆめ』
ホームページ
QRコード

未来をつくる

「すすはなプロジェクト」の活動について



すすき川花火大会は、残念ながら2年連続中止となりました。しかし、花火大会が地域の人にどのように結びついているか、長く続くための花火大会とは、学生と地域との関わりをもっと広めることはできないか、などを考え、実行委員会に提案し、アンケートを実施することとなりました。

実行委員会に所属している町内にはアンケートを全戸配布し、図書館やMウィングに来館した方にはその場で記入をお願いします。また、SNSを通じてアンケートの実施もするという三本立ての情報収集を可能にし、年齢層や地区に偏らない幅の広いアンケートにしました。

そして、筑摩神社の歴史を学習しようと、筑摩東町会・筑摩町会の町会長さんや過去に氏子総代を務めた方からお話を聞きました。神社の宵祭りに行われていた花火は、地域の

人も楽しみにしており古い歴史があることや、親戚がその日に集まり、庭や2階の窓から花火を見ては談笑するなど、地域に根づいていたことを知りました。大勢の人の苦勞で花火大会が受け継がれてきたことも理解できました。

今後、アンケートの集計をし、その分析結果を町や実行委員会に報告し、学生の学習の機会を増やしていきたいとメンバーは意欲的に考えています。



学生の感想

町会長さんに地域の話を聞かせていただき、それを基にアンケートを完成させました。まず、町会長さんには感謝してもしきれません。お話から重要なことを学びました。その地域のことを知らない限り、無知での活動はただの自己完結です。地域貢献の第一歩は地域を理解することです。この活動で、最も重要なことを学びました。(塚田)



『 #つぶやき 』

地域の方からの声かけや学生のふとした感想など、交流の中で出てきた一言をお届けします。
今回は、前期に活動した学生プロジェクトの中からピックアップして、学生の感想をお届けします。

#学生プロジェクト

私は、今年からキッズホッケーの活動に参加させていただいています。回数はまだ少ないですが、週に一度小学生や先輩方と一緒にホッケーをして、お話をする時間は本当に楽しくて、毎回元気をもらっています。そしてこの活動から学ぶことはとても多く、私にとって大切な時間です。このような素敵な活動に参加させていただけることに感謝しています。

キッズホッケー 福永



先輩の姿から学ぶこと、子どもとの関わりから得られる気づきがありますね。
自分から一歩踏み出したからこそ、感じられた思いを伝えてくれました。

先日CoderDojoの代わりの取り組みとして、大学で学生を対象にしたプログラミング体験会を行いました。少しでもプログラミングの難しさの壁を乗り越えて楽しんで貰えたら嬉しいです。今後も企画予定なので、興味のある方は是非一度お越しください。全力でサポート致します。何かあったらいつでも相談に来てくださいね。お待ちしております。

CoderDojo松本@松本大学 宮尾



普段は子どもたちがプログラミングを楽しめる場を開いていますが、それがなかなかできないね。だからこそ新たな取り組みを考え実践することは、学生に向けた活動紹介や声かけにもつながりますよ。

はじめは緊張して、話をしてくれるのかなと思っていました。しかし、実際に対面してみるとどこにでもいる普通の少年でした。犯罪をしてしまった人を社会から切り捨てるのではなく、問題の背景を知り、改善できるようサポートをしなければ、誰もが巻き込まれてしまう可能性があり、他人事ではないと思いました。これからも少年たちとの会話を大切にしていきたいです。

松本BBS会 矢次



退院間近の少年と懇談をする「いろいろばた集会」に参加した感想ですね。
実際に会話する中で、少年に対する考えが変わったことがうかがえます。

お問い合わせ

松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村2095-1 松本大学内7号館2階 【開館日時】月～金 10:00～18:00
【TEL】0263-48-7213 【FAX】0263-48-7216 【E-mail】community@t.matsu.ac.jp

【SNS】



YouTube



Twitter



Instagram



CHIRIDOHARINODUYUME



<https://www.matsumoto-u.ac.jp/yume/>

